

# 平和憲法・9条をまもる

## 岩手の会 ニュース No.213

2023. 6. 30

発行：平和憲法・9条をまもる  
岩手の会 実務者会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL 019-684-2225

FAX 019-684-2227

### すすめよう！「憲法改悪を許さない全国署名」

### 岩手の署名は 30,875 筆（～6月末。うち郵送 336 通・1,301 筆）

◇返信用封筒もあります。地域配布等に活用ください。ご希望の団体は岩手県生協連まで。

### 「戦争も原発も環境破壊そのもの。即刻止めるべき」～9条を守る盛岡北部連絡会講演会～

地域9条の会、医療生協、新婦人の会で作る「9条を守る盛岡北部連絡会」は、5月27日、「環境問題と平和を考える講演会」を開催しました。

講師は吉村泰樹さん（岩手大学名誉教授）。「生命のエネルギー支援の視点から環境問題を考える～持続可能な社会をめざして」と題して講演。吉村さんは、「生物は、他の生物との関係の下で生命を維持できる。戦争は環境破壊そのもの。地球環境の破滅的負荷をかけた人類こそ生物間の戦争を止めるべき」「原発は、環境に悪影響を与える。温暖化を止める手段にならない。岸田政権によるごまかしだ」と話しました。



参加者からは、「40億年かけて作られてきた地球の環境をいかに人間が壊しているのか、わかるお話でした」（70代女性）、「地球が作り出してきた生命体の仕組みのすばらしさを感じました。この仕組みを壊さない、地球を守るためには自分たちのやらなければならないことが確認されたのがよかったです」（60代女性）、「難しい数式はほとんど理解できなかったけれど、生命が生きていく化学反応は、循環から大きな逸脱がない、環境への負荷がないという考えはすっきりしました」（60代女性）、「地球環境はうまく回っている。これを壊しているのが人間なんだ。戦争に反対して頑張りたい」（70代女性）などの感想が出されました。

まとめでは、岸田内閣は専守防衛を投げ捨て「敵基地攻撃能力の保有」「5年間で43兆円もの軍事費拡大」と日本の未来を左右するような問題をどんどん推し進めている。憲法調査会での自衛隊明記、緊急事態宣言条項創設等の改憲議論を加速させる動きに警戒。「草の根運動」を急速に強めることの大切さが訴えられました。（小林絃一）

### 劇場版「荒野に希望の灯をともす」情報

#### ◇6/18盛岡は850人鑑賞。ご協力ありがとうございました



「戦争では国同士の争いは解決しない。武力で平和は守れないことを再確認」「異国の地で信頼を得て事業をやり遂げる哲さんのように、日本も平和外交すべき。政府・官僚たちにもぜひ観てもらいたい映画」「自然との共生によって人々の幸福がもたらされる、という言葉が印象的。私たちは自然の恵みを享受されて生かされていることを忘れてはいけない」「水路によって砂漠が緑の大地に変わる光景に感動。映像や中村さんの言葉にマスクで涙がいっぱい。上映会開催ありがとうございました」等、感動した、よかった感想が多く出されました。上映後の谷津監督（写真中央）によるトークやサイン会も大盛況でした。今後も県内で上映運動をすすめていきます。

### <事務局からのお知らせ>

### リニューアル版『日本を戦争できる国にしないために

### 敵基地攻撃論への反論』リーフレット

全国市民アクション作成 A5判4ページカラーのリーフレットが、リニューアル。無料で差し上げますので、街頭宣伝・署名行動・学習等にご活用ください！お問い合わせは、岩手県生協連まで。



## 大江健三郎さんの志を受け継ぎ、大軍拡・憲法改悪を止めよう！－「九条の会」全国交流集会

九条の会は5月28日、日本教育会館で約5年半ぶりに交流集会を開催。全国32都道府県、29の分野別の九条の会から約300人が参加しました。岸田政権が安保3文書に基づき「敵基地攻撃能力」の保有、GDP比2%、5年間で43兆円の大軍拡を進める岸田政権のもとで、軍事費確保特措法、軍事産業支援法等が参議院で審議されている緊迫した状況の中、憲法9条を守ろうと草の根の運動を交流しました。

はじめに、小森陽一事務局長から、3月3日に死去した九条の会呼びかけ人・大江健三郎さんの思いを受け継ぎ運動を進めていく決意が表明されました。小森氏は、G7広島サミットについて、広島で開催しながらG7から核抑止力論を全面的に正当化する「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」が出されたことを断じて許せないと厳しく批判。「これが9条改憲を明言する岸田政権の本質だ」と述べました。岸田政権の大軍拡政策に対する反対の声と

運動を進めていくことが大事だと訴え、「専守防衛を捨て、憲法の平和主義を踏みにじり、国民の暮らしや経済を無視して軍拡増税を進めていることを多くの国民に明らかにしていくために、九条の会の運動を大きく広げていこう」と呼びかけました。

その後、全国首長九条の会の滋賀県米原市の平尾市長から、戦没者の名前を記銘した「忠魂碑」を沖縄・糸満市の「平和の礎」のように建立する取り組みや、「右手に釣り竿、左手に憲法、平和でなければ釣りができない」という



スローガンで全国の釣り仲間呼びかけ約100人集まった「溪流九条の会」など、23人の方が全国各地の取り組みを報告しました。

最後に、世話人の愛敬浩二早稲田大学教授、浅倉むつ子早稲田大学名誉教授、池内了名古屋大学名誉教授、翻訳家の池田香代子さん、弁護士の伊藤真さん、清水雅彦日本体育大学教授が挨拶。改憲・大軍拡に歯止めをかける「九条の会」の重要な役割を語り、事務局・高田健さんが、「改憲派の企てを阻止するために世論を高め、運動を強め、たたかいを大きく進めよう。今日を『九条の会』の再出発点にしよう」と呼びかけると、会場から大きな拍手が起きました。

◇YouTube見逃し配信はこちら⇒ <https://youtu.be/63dhDUNvU28>



### －「激戦地 邦人義勇兵「10人いる」、「生死は運次第」「やらなければやられる」

東日本出身26歳男性 前線7ヵ月、「自分できめたこと」－ええッ、此のままで良いのか？－

ロシアによる「ウクライナ侵略」が一年以上続き、これが何時までつづくのかの「議論」も見え始めるこの頃、日本国民の中からウクライナ支援の「義勇兵」がいるとのこと、「九条守れ！」などと「日本国憲法」擁護の運動キャンペーンに参加しているコラム子としては、とうとう現れたかという心境です。

これまでシリアの義勇兵になろうとした大学生がいたとか、古くはフランスの外人部隊に日本人がいたとかがあり、違和感を感じていました。まずは報道文を見てみよう。

≪【キーウ共同、'23・4・25付け岩手日報】ウクライナ東部の激戦地で、義勇兵として約7ヵ月にわたり対ロシアの塹壕戦に参加したという日本人男性（26）が24日までに首都キーウ（キエフ）で取材に応じた。ウクライナには日本人義勇兵が「自分の知る限り約10人いる」と証言。「ロシアへの恨みもウクライナへの同情もない。ただ女性や子どもが虐殺されているのを知り、ここに来た」と参戦の理由を説明した。…「生死は運次第」とし「やらなければやられる」と、敵兵を撃つことに迷いや罪悪感はないと強調した。…日本政府はウクライナ全土の危険情報を最高度の「レベル4」（退避勧告）とし、戦闘に加わる目的での渡航は私戦予備・陰謀罪（刑法）に当たる可能性がある。男性は「自分で決めたことなので、それならそれで構わない」と淡々と話した。≫とのこと。

読者の皆さんはどのように考えますか。

コラム子は「憲法改悪に反対！」「九条を守れ！」と、正しい歴史認識が満載の「日本国憲法」擁護の活動を強めていきたいと考えます。(T)

**「7月の街宣署名行動」 10日(月)12:15～12:45 盛岡市大通・野村証券前**

ご都合のつく方は、ぜひご参加下さい。